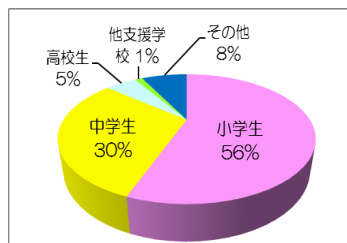


平成24年度の実施状況と相談傾向（8月末現在）

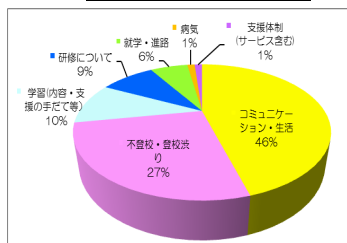
新規相談件数 79件、延べ相談件数 322件

新規相談者の内訳



昨年度同様、小学生の相談が半数以上になっています。その他では、不登校による高校中退者、高卒後のひきこもり、他機関からの相談がありました。

新規相談者の内容



昨年度と比べると、「コミュニケーション・生活」の割合が多くなっています。不登校の状態にまでは至っていないが、過剰適応状態にあり、学校や家庭で不適応を起こしているケースが増えています。

不登校の相談の多くが、発達障害の診断有り及び傾向有りのケースです。

特別支援教育研修会への御参加、ありがとうございました。

テーマ 「発達障害のある子どものメンタルヘルス」 ～二次的な障害を予防する支援～

府内の保育園・幼稚園・小中高校・支援学校等から約320名の参加がありました。多くの感想も寄せていただきました

講演 精神科医 有賀 やよい 氏



発達障害児は、それぞれ生きにくさやストレスを感じ、それはときには情緒や行動の混乱としてあらわれることがあります。それぞれの発達障害の特性と発達レベルに見合った、ストレスへの対応法を身につけ、コントロールできるようになる支援が必要であることを、具体的にわかりやすくお話ししてくださいました。

<参加者アンケート提出 149人>

- ・すぐに実践に生かせる (39人)
- ・参考になった (110人)
- ・あまり参考にならなかった (0人)

<参加者の感想より>

- ・メンタルヘルスや二次的障害、思春期の課題など一歩先の支援について、これまであまり聞いたことがなかったので、今日はよくわかりました。
- ・子どもたちがなぜそのようなことをするのか、行動の背景にあるものから対応していかなければいけないと思った。

パネルディスカッション



精神科医 有賀 やよい 氏、京都府総合教育センター 主任研究主事兼指導主事 大森 直也 氏、臨床心理士 馬見塚 珠生 氏、本校地域支援コーディネーターがそれぞれの立場からコメントをしました。

<参加者の感想より>

- ・色々なことを決めつけないで、子ども、保護者の立場に立って支援することの大切さを学びました。
- ・色々な方がそれぞれの立場から支援について話をしてくださって、とてもわかりやすかったです。もう少し詳しく聞くことができればよかったかなと思いました。
- ・地域連携が進んでいて素晴らしいと思いました。

<研修会のご案内> 今年度も「不登校支援研修会」を実施します。御参加お待ちしております。

日時 平成24年11月7日(水) 午後3時00分～5時00分(受付 2:45～)
会場 本校会議室 定員 50名
テーマ 不登校へ理解と支援の実践 ～読み書き障害を併せ持つ事例をもとに～
助言者 松島 佳苗 氏 (作業療法士)

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学専攻

地域支援センター「サポートJOYO」巡回相談員

